

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

血圧 (2013.02) 20巻2号:204～206.

【高血圧診療とチーム医療】
日本高血圧学会におけるチーム医療への取り組み

長谷部直幸

日本高血圧学会におけるチーム医療への取り組み

長谷部直幸*

SUMMARY

生活習慣病のなかでも圧倒的多数の患者を対象とする高血圧学会にとって、ともに日常診療を支えるコメディカルの方々に学会参加を求め、より充実した高血圧診療のあり方を追求するのは当然のことである。日本高血圧学会に2010年新設された「コメディカル委員会」は、その後、より機能的な側面を重視する「チーム医療委員会」と改称して活動をつづけている。看護師、保健師（助産師）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師などの各領域を横断して活動する本委員会が、今後ますますその重要性を増すことは疑いのないことである。

KEY WORDS

コメディカル、チーム医療、服薬指導、減塩指導、運動療法

はじめに

日本高血圧学会では、2010年秋にコメディカル委員会（現・チーム医療委員会）が新設された。生活習慣病のなかでも圧倒的多数の患者を対象とする高血圧学会にとって、ともに日常診療を支えるコメディカルの方々に学会参加を求めることは当然のことであり歓迎すべきことである。看護師、保健師（助産師）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師などの各領域に精通する委員が集まり、2011年から本格的活動を開始した。

本稿では、委員会の立ち上げ後の活動を振り返るとともに今後の課題をまとめたい。

1. 委員会の目的と構成・名称

日本高血圧学会コメディカル委員会を構成するにあたり、まず高血圧学会が対象とすべきコメディカル職種を規定することとした。高血圧診療にかかわるすべての職

種を対象とすべきことを前提に、看護師、保健師（助産師）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師の6職種があげられた。これらを網羅する視点で、長谷部直幸を初代委員長として、土橋卓也、下澤達雄、有田幹雄、久代登志男、早瀬仁美、宮原富士子の7人の委員で、コメディカル職種の学会参加を促進し、コメディカルとともに進める、より充実した高血圧診療のあり方を検討することを目的として委員会を立ち上げた。

後にコメディカルの呼称に関して疑義が提起され、改称も検討されたが、すでに社会的に定着した呼称であり、他に他職種を網羅的に総称する適切なものがないことから、コメディカルの呼称はそのままとするものの、委員会の名称自体はコメディカル委員会からチーム医療委員会として、より機能的な呼称を採用した。

*旭川医科大学内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野

2. コメディカル会員の学会参加の促進

高血圧学会へのコメディカル職種の参加を促すために、まず学会総会での十分な対応が必要と考えられた。そのためには、総会でのコメディカルを対象とした教育プログラム・シンポジウム企画の充実が求められる。コメディカルが関心をもつテーマのシンポジウム、教育講演を企画し、シンポジウムなどの企画では、演者としてコメディカルの積極的な参加を求めることや、コメディカルを対象とした Travel Award の創設が提案された。また他のコメディカル学会との連携を強化して演者の推薦・決定をおこない、海外からのコメディカル演者を招聘することなども検討された。学会開催中に情報交換の場（仮称：コメディカル広場）を提供し、コメディカル向け書籍、患者指導グッズ、減塩食品の展示などを積極的におこなうことも提案されている。

また、各コメディカル資格の更新を学会が支援するシステムとして、生涯教育研修の単位取得が可能な企画を工夫することなどがあげられた。また、各地のセミナーなどに際して、開催地の薬剤師会その他での研修単位の取得を支援することも進められている。

各学会総会・臨床高血圧フォーラムで好評のハンズオンセミナーでは、臨床検査技師の積極的な参加が勧められている。心・腎超音波検査などのハンズオンセミナーでは、講師として臨床検査技師が活躍する場面が増えている。また、今後、尿沈渣所見の評価などを同セミナーでおこなうことも計画されている。今後、ますます学会における臨床検査技師の活躍と研修参加が求められている。

3. コメディカルとともに推進すべき高血圧診療や社会活動のあり方・方策の提言

コメディカルの各学会やコメディカル主催の地域企画に高血圧学会員が積極的に参加貢献することが勧められる。病態栄養学会、循環器看護学会、薬剤師関連学会などの各学会の運営に貢献し各学会と共同企画を進める。また、薬剤師、栄養士主催のセミナーや自治体企画の講演会などへの貢献も求められる。とくに日本高血圧学会の減塩委員会と協調し、減塩の徹底をはかると同時に、食育としての減塩の取組を推進し高血圧予防の重要性を

浸透させるべきことが提言されている。さらに体力医学会、臨床スポーツ医学会、健康運動指導士会などと連携し、高血圧の運動療法の推進をはかることになっている。

また、コメディカルの高血圧診療における現状把握の必要性もあげられた。とくにコメディカルへの高血圧治療ガイドラインの浸透度を把握する必要性が指摘され、勤務医と開業医、保険薬局薬剤師、管理栄養士、訪問看護師、保健師などへの浸透度の較差を認識して対策を講じるべきことが指摘された。薬剤師の服薬説明、服薬指導の実態を把握し、副作用特化型の説明の是正をはかることや、製薬会社各社にも改善に向けた工夫を喚起すべきことも指摘されている。コメディカルと協調する高血圧診療の推進のために、より具体的に以下の3つのワーキングが立ち上がり活動を進めている。

1) 服薬指導の標準的モデルの構築をはかるワーキンググループ

おもに薬剤師と協調するためのいくつかの具体的な活動案が提示されている。NPO 法人「高血圧改善フォーラム」とも連携しながら、携帯電話機能を内蔵した自動家庭血圧計を用いて、家庭血圧を客観的かつ正確に評価しながら、チーム医療委員会と共同で血圧管理を充実させる取り組みが計画されている。また、薬剤師の高血圧診療へのかかわりをより効率的におこなうために、eラーニング・システムの導入も計画されている。

2) 食習慣・生活習慣（減塩・禁煙・睡眠）指導の標準的モデル構築をはかるワーキンググループ

減塩委員会とも密に連携を取り、栄養士・薬剤師など、保健療養指導チームとしておこなう取り組みとして、それぞれの地区の減塩委員会およびコメディカルの方々を中心にセミナーやワークショップなど、実践的な機会がもてるよう工夫が検討されている。また、コメディカル全体で共通に使用できる指導ツールの開発も進められており、コメディカルを対象とした生涯教育セミナーも計画されている。

3) 運動習慣指導の標準的モデルの構築をはかる ワーキンググループ

手始めに臨床運動療法研究会において、運動療法および高血圧の研究を広めていくことが提案されており、その際、フィットネスと連携しつつ、看護師・保健師などを含めて運動療法を積極的に推進する取り組みが検討されている。今後、体力医学会、臨床スポーツ医学会、健康運動指導士会などとの連携も進められる。

4. 高血圧学会が認定するコメディカル資格の設定

他学会で設定されている療養指導士と同様の認定資格を設ける案も検討されている。高血圧診療を充実させ、同時に学会活動を促進する目的で歓迎する意見もあるが、保険診療上のインセンティブが確保されていない現状では慎重であるべきとの意見もある。糖尿病学会の「糖尿病療養指導士」と一線を画すならば、減塩に特化して、

より予防的視点を重視した資格をめざすべきとの意見もある。しかし、本来生活習慣病全体を眺めた場合、学会横断的にすべての生活習慣病を網羅する資格として、コメディカルに付与される何らかの資格を認定すべきではないかと思われる。その点、呼称としてはすでに肥満学会が「生活習慣改善指導士」の資格を設定しており、その内容を精査し発展的な統合や整理をよびかけるべきとの意見も出されており、今後さらに検討が進められる。

おわりに

日本高血圧学会に立ち上げられた「コメディカル委員会」は、「チーム医療委員会」と改称して、より機能的な側面が重視される形となった。2013年からは、大屋祐輔新委員長のもと、新たな委員会が組織され、更なる発展が期待されている。コメディカルの方々と連携して進めるより充実した高血圧診療を追求するために、この組織が今後ますます重要性を増すことは疑いのないことである。